



Contrast Protect

ランタイムアプリケーション自己防衛(RASP)ソリューション

課題

- **開発者がコード修正にかかる時間不足により、重要なアプリケーションが無防備な状態で放置されている。** *Dark Reading*によると、脆弱性修正の平均時間は38日間*。
- **CI/CDや伸縮するクラウドワークロードに実行可能なWAFオプションがない。** コード変更の都度、ルール調整と追加ノード設定必須。
- **攻撃検知不可:** 現行ソリューションではコードレベル、API、“シグネチャ検出が困難な”攻撃を検知不可。
- **アラート疲れ:** チームは実際の脅威(悪用)と攻撃前の探査(プローブ)の区別がつかずアラート疲れからWAFのブロックモードを切ってしまう場合がある。
- **アプリケーションレイヤー情報の欠如:** どのアプリケーション、ライブラリ、機能が攻撃対象かが解らない。

解決策

Contrast Protectは、ソフトウェアWAFの様に機能しアプリケーションを自己防衛可能にするソリューションです。アプリケーション内でエージェントが動作し、その攻撃の詳細情報を取得し可視化と調査を改善し安全性を向上を図ります。

エージェントにより監視と制御機能をアプリケーションに付加します。例えば、Javaアプリケーションであれば、Contrast Securityは標準のjava.lang.instrumentation APIを活用し、ソースコードやJVM(Java仮想マシン)に変更を加えることなく動作。

Contrast Security独自の特許取得済み検知機能によりエージェントは、他のソリューションに比べて多くの情報に基づき、より深いレベルで攻撃を検知し対応することが出来ます。弊社では、ゼロデイ攻撃の防御やプローブ検出の安定性と包括性に優れた7段階のアプローチを取っています。

差別化ポイント



アプリケーションの特性を意識しているため、攻撃を正確に“可視化”



ライブラリとその使用方法を追跡管理するソフトウェア構成分析



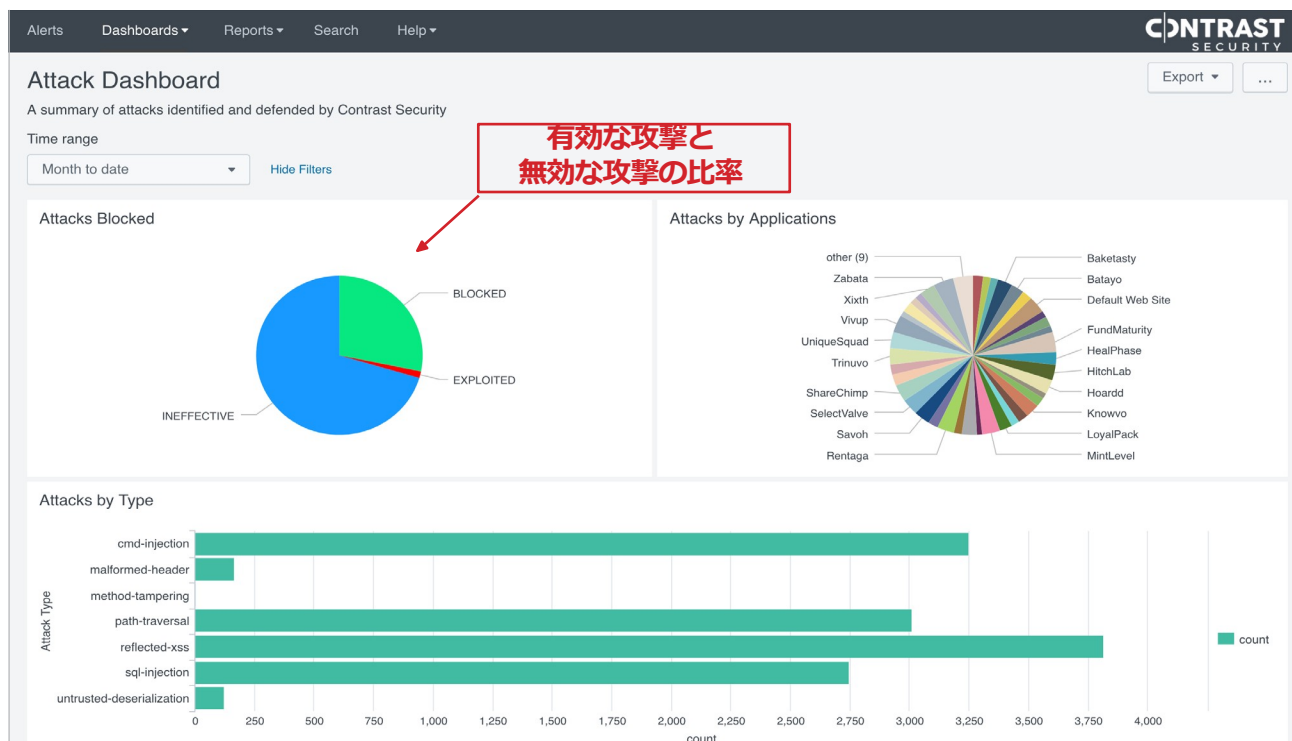
コード変化を要さずユーザやログの変化に関するアプリケーションの知識に基づいたSEMの検知やアクティビティ監視の向上



性能を維持しながらセキュリティ向上

“新たなアプリケーションをパブリッククラウド(AWS、Azure、GCP等)でホストするときに、Contrast Securityのコントロールで強化した自動化パイプラインを使ってアプリケーションを起動しています。攻撃からの保護を標準装備でコスト効率がよく、調整はほぼ不要最小限の管理で実装できます。”

グローバル・フォーチュン100社グローバル・アプリケーション・セキュリティ担当シニアマネージャー



ContrastとSplunkの連携による攻撃の可視化

主な保護機能

攻撃の防止: 脅威にさらされたときにAPIレベルで遮断して攻撃から防御。ノイズや手動調査必要なし。

10分で簡単インストール: Contrast Securityは、複雑な設定やチューニング無しで、アプリケーション内で起動および実行。

コード変更不要: Contrast Securityのバイナリ計測機能は、新規コードもレガシーコードもデプロイなしで機能。

Splunkとの連携: Splunkが受信するデータを関連性の高い情報を含めて強化。Contrast Securityが、新たに提供するイベントにより検索と相関分析の精度を高めます。

ルートカバレッジ: 外部から提供されるAPIを分析し攻撃対象領域を一覧表示。この一覧表示機能により、アプリケーションの使われ方を一元的に把握することによりセキュリティテストにおいてテストの重複を無くしより効果的に対応可能。

ソフトウェア構造解析: サードパーティのライブラリ使用状況を管理し、その脆弱性の影響を把握できます。Contrast Securityが他のライブラリ脆弱性管理ソリューションと異なるのは、ライブラリが実際にどれくらい利用されているかを把握出来ることです。

ログ・エンハンサー: コード変更を伴わないアプリケーションレベルのログ収集とその監視

*Dark Reading, 2018